

日本の学童ほいく

新ロゴで
リニューアル

みんなで読もう
目標
3万8000部

全国学童保育連絡協議会

普及拡大 ニュース

2021年5月17日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

元気が出る
みんなの取り組みを
ご紹介

地域での普及拡大の取り組み

東京 の 取り組み

力を込めて「ほいく誌」の普及拡大に取り組んでいます！

4月の都連協運営委員会で、①学童保育への購読案内を発送＆手配り、②指導員組織ルートで配布、③各区連協・父母連の取り組みなどを確認。千代田・中央・港・台東・渋谷の5区で未購読の学童保育計104か所へ、「チラシ」「見本誌」「指導員学校リーフレット」等を4月末に発送。文京・荒川は、区連協の協力・尽力で2区46か所へ手配り・発送。文京は2000枚、練馬は5500枚のチラシを、指導員組織を通じて保護者に配布。江東では加盟2クラブの父母会総会を通じて80枚を各世帯へ配布。

埼玉 の 取り組み

新年度の方針で「ほいく誌」の普及拡大を再確認！

『日本の学童ほいく』普及拡大の取り組みとして、全員講読と合わせて、加盟クラブは最低でも、指導員全員＋保護者役員の購読を掲げる。具体的には、①毎月の運営委員会で現状報告、地域の取り組み状況を確認。②県連協、県指導員連協との共同で、指導員には全員講読の呼びかけを行う。県指導員連協発行の「みんなのほいく誌」で、普及拡大・活用などを紹介。県連協役員有志により、毎月最終土曜日に、読み合わせ会「ほいく誌カフェ」を開催。

川崎 の 取り組み

6月の総会では、「ほいく誌」の大切さや価値、おもしろさを伝える

総会に向けて普及拡大の取り組み案を検討。①今までどおり個人購読を増やす。②指導員＋保護者会役員＋1年生の家庭へ購読をすすめる。具体的には、購読費の半額または全額を運営費から捻出、個人購読者への補助を出す等。それぞれの学童保育所が取り組めるよう、例示を示して普及拡大をすすめます。川崎の学童保育は自主運営で保育料も高く、運営も厳しいなかで、保護者の理解と協力が不可欠です。

日本の学童ほいく 6月号

特集 学童保育 指導員の仕事

子どもにとって学童保育は、安心して過ごせる充実した生活の場であることが大切です。今回の特集では、学童保育の役割を果たすうえで求められる学童保育指導員の仕事について、たしかめあいます。



日本の学童ほいく

新ロゴで
リニューアル

みんなで読もう目標 3万8000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

普及拡大 ニュース

2021年5月17日



読者の声

石川県金沢市 ● 保護者から

娘も小学2年生になり、自分でできることがずいぶん増えました。私自身も転職して5年経過し慣れてきたこともあって、夫との家事の分担も板につき、平日にも少し時間と心のゆとりが生まれてきました。

もともと、小さいころから「本の虫」だった私。ご無沙汰だった読書の時間を持てるようになり、毎日充実しています。そして、たくさん読んで活字という栄養を心に取り込んでいると、今度は自分で文章を書きたくなるんですね。

というわけで、本誌モニター2年目となった2020年度は、前年度に比べてモニター通信が書きやすかったです。2021年度はますます「書く仕事」をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします！

山形県村山市 ● 指導員から

見慣れたタッチの表紙の絵。

最近、指導員同士で「今月のテーマは何だと思う??」と、絵に込められた物語を想像するのが定番になっています。

2021年2月号、私は「猫はこたつで丸くなる♪」なんて歌っておいて～（やれやれ）」と思い浮かべた表紙。猫のため息が、どうしてもそんなふうに見えたのです。ページをめくり、表紙のタイトルを確認すると、「もう、外で遊んでよ～」でした。このため息は、「早くこたつで丸くなりたいのに～」という思いだったのでしょか。いっしょに描かれたかるたの絵も楽しませてもらい、みんなで会話がひと盛り上がり。次号はどんな表紙なのか、密かな楽しみになっています。



ぼくが『日本の学童ほいく』に出会ったのは20年前のこと。子どもの入った学童保育は、民設民営で、誌代は会費に含まれていた。「月に1回の保護者会で配られる、なんだかわからない本」。正直読んでいなかった。ところが2年目。児童数が減り、運営が厳しくなった！ぼくは保護者会の事務局長。すぐに「ほいく誌を減らそう」という声があがる。年間約16万円。予算的には大きい。そこではじめて、「この本何の本？」という声が出て、議論になった。

「2部くらいを購読してまわし読みでよくね？」との意見もあったが、まわし読みはめんどくさいという理由で全世帯購読を継続した。会計面ではなるべく1年分の会費をまとめて納めるという方法（2年分でも可）で乗りきった。1年分読み返してみても、本のコンセプトがつかめない。機関誌であり、子どもの絵あり、大学の先生の話あり、実践あり「整理してコンセプトの明確化を図ったら」と思った。

そして10年が過ぎ、子どもは卒所したのにぼくは連絡協議会役員などをしてきた。あるとき、運動に行き詰まり、ふと、ほいく誌を開いた。目が覚めたようだった！ほいく誌の何でもありでまとまらない内容、これって、今の自分たちの状況そのものじゃないか！じっくり端から端まで読んでみた。一つひとつはばらばらの記事だけど、今の学童保育を、自分の運動のめざすところがなんとなく見えてきた気がする。すべての人に言いたい。子ども、指導員、保護者、運営者、研究者、役人。この本にはあなたたちのことが書いてある。学童保育をとりまく世界がつまっている。子育てに、運動に、悩んだら開いてみてください。今の状況を見直すヒントがつまっています。ぼくにとって、『日本の学童ほいく』は光です。

私と「ほいく」誌

全国連協役員リレー執筆・今月は神奈川県山崎善明さん